

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：28003

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2015

課題番号：24659966

研究課題名(和文) 直接占領下における沖縄の看護教育 沖縄県公文書館所蔵文書を用いての検討

研究課題名(英文) Nursing Education in Okinawa during the period of jurisdiction under USCAR -Study of using USCAR documents stored in the Okinawa Prefecture Archives-

研究代表者

安和 やよい(Awa, Yayoi)

名桜大学・公私立大学の部局等・研究員

研究者番号：60528991

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：第二次世界大戦後、1972年まで米国の直接占領下におかれた沖縄の看護・看護教育は、琉球列島米国民政府(USCAR)の指導者によって行われ、その影響は復帰後にも及んだといわれている。USCAR統治時代で沖縄の看護と看護教育に影響したのは、USCAR設置当初から看護教育・行政に関わった看護顧問とミシガン州立大学教授団であり、看護顧問は主に看護学校や法令の整備に影響し、ミシガン州立大学教授団は1960年代頃から琉球大学での医学教育に助言を与え、大学の看護教育開始につながったと推測された。

研究成果の概要(英文)：After World War II, Okinawa was placed directly under the jurisdiction of the United States until the reversion in 1972. Nursing and education of nursing in Okinawa were carried out by leaders of United States Civil Administration of the Ryukyu Islands (USCAR), and their influences were said to have continued even after the reversion. During the period of jurisdiction under USCAR, Okinawa's nursing and nursing education were influenced by the intended establishment of USCAR and Michigan State University's (MSU) professors. The nursing advisors had impact on the education and government of Ryukyu, which primarily established nursing schools and nursing laws and regulations. Professors of MSU's group had been advising the School of Medicine with the preparatory committee of the University of Ryukyus from around the 1960s. There have been speculation that these advices have led to the beginning of the nursing education of the University of Ryukyus.

研究分野：看護歴史

キーワード：USCAR 琉球列島米国民政府 MSU ミシガン州立大学 直接占領下 看護教育 沖縄

1. 研究開始当初の背景

沖縄県は第二次世界大戦終結後、日本復帰する 1972 年までの 27 年間、米国の直接占領下におかれた。米国による占領政策は戦後沖縄の政治や経済ばかりではなく、医療・保健の分野にも大きな影響を与えた。

沖縄における戦後の看護教育・看護行政は当時の司法・立法・行政を司る最高機関であった琉球列島米国民政府 (United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, USCAR) の指導者によって行われ、その影響は復帰後の看護教育にも及んだといわれている。

USCAR 設置後の 1956 年に定められた看護関係の法律である布令第 162 号では、准看護婦の資格を規定しておらず、また 3 年課程の琉球政府立看護学校への入学条件を高等学校卒業として開始させるなど、看護婦の資格や教育も日本本土の看護を取り巻く状況とは違っていた。

USCAR の看護教育への具体的な影響の一例として、琉球大学に委託制度を設け琉球政府立看護学校の学生を対象に、大学で単位を取得させたシステムが挙げられる。また日本本土でも大学における看護教育が少なかった時代において、沖縄では 1969 年から琉球大学保健学部で看護教育が開始されていることも USCAR の影響があったのではないかと考えられた。

USCAR の指導のもとで看護教育を受けた公衆衛生看護婦・助産婦・看護婦は、病院や地域、また看護教育の場で活動を実践し、沖縄での看護の社会的地位を確立したといわれている。特に公衆衛生看護婦は沖縄本島・離島の各地域に駐在し、結核をはじめとする感染症の患者数減少に大きな役割を果たした。

これまで占領下の沖縄の看護や看護教育について沖縄側の資料を基にしたいくつかの報告はあるが、米国公文書や USCAR の看

護顧問など、アメリカの指導者が記述した記録を基にした沖縄の看護・看護教育についての研究は少ない。

沖縄県公文書館に保存されている USCAR 文書は、米国公文書館保存の USCAR 文書を複写して持ち帰られたもので、1998 年から一般に公開されている。USCAR は沖縄の日本復帰決定後の 1969 年から文書の整理を行い、USCAR の執務が終了した 1972 年には整理した文書を米国公文書館に移管している。

沖縄の日本復帰後、USCAR 統治下の琉球政府資料が一部破棄されたこともあり、琉球政府側の資料だけでは占領下の沖縄の看護や看護教育史の不明な点を明らかにすることはできないと思われた。そこで、これまで明らかにできなかった沖縄の看護・看護教育史を確認することができる資料といえる USCAR 文書を検討する事で、統治下の沖縄の看護や看護教育がどの様に行われたかを明確にできる契機となると考えた。

2. 研究の目的

(1) 沖縄県公文書館に保存されている医療・教育関係の USCAR 文書には 1945 年のミニッツ布告に始まる米国海軍、陸軍による軍政時代の 5 年間の沖縄の保健・医療に関する書類に加え、1950 年 12 月から 1972 年 5 月までの USCAR 統治時代の報告書や議事録、案件が決議されるまでの過程を記したと思われる手書きのメモ等が含まれている。

(2) 本研究は USCAR 設置以前の軍政府時代の書類を含む USCAR 文書を検討することで、統治下の沖縄の看護や看護教育がどの様に行われたかを明らかにし、沖縄の看護教育について示唆を得る事を目的としている。

3. 研究の方法

- (1) 沖縄県公文書館保存の USCAR 文書の検索と研究対象となる USCAR 資料の検討：USCAR 統治時代、看護教育・行政に関わった看護顧問が所属していた保健教育局には複数の部署が存在しており、統治期間中、各部署は必要に応じて編成が行われていたことがわかっている。復帰が決定し、USCAR 文書の移管のための整理作業が始まった前年の 1968 年 当時存在していたのが、局長室、総務室、病院管理室、公衆衛生課、教育課、社会福祉課であったとされている。

現在、沖縄県公文書館に保存されている USCAR の医療・教育関係に関わる文書である保健教育局文書は、厚生教育局文書、公衆衛生課文書、教育課文書、社会福祉課文書の 4 シリーズに大別されている。総務室と病院管理室の文書がシリーズとして保存されていない理由は、移管作業の過程でこの 4 シリーズに集約されたためとされている。

保健教育局文書の 4 シリーズの文書総数は 290 箱 3,446 冊である。3,446 冊の各フォルダーには標題がつけられているが、標題には「管理ファイル」や「日報」と記し日付を付記したものが多く、USCAR の看護顧問の名前や布令の号数等、現在確認されている看護関係の事実をキーワードとして、その内容を検索する事は難しい。そのため以下の方法でフォルダーを検索し本研究に使用する USCAR 資料を抽出した。(以下本研究に使用する USCAR 文書は USCAR 資料とする。)

保健教育局文書フォルダーリストから以下のキーワードの入った標題の検索：(キーワード：教育、看護教育、看護、看護婦、助産婦、公衆衛生看護婦)

布令の発布等、出来事の暦年に焦点をあてた検索：沖縄の看護の歴史で特徴的なことがあった年の前後に作成されたフォルダー、年度フォルダー等を検索した。選び出したフォルダーを検討し、本研究に使用する USCAR 資料を決定した。

- (2) 本研究で対象とした USCAR 資料の 1 次資料の調査：研究対象とした USCAR 資料の中で、琉球大学で開始された看護教育に関するフォルダーの出典であるミシガン州立大学 (Michigan State University, MSU) 関係の以下の資料をミシガン州立大学アーカイブスアンド ヒストリカルコレクション (University Archives and Historical Collections, Michigan State University) で収集した。ミシガン州立大学が琉球大学に関わる経緯を記録したハンナ学長文書フォルダー 琉球プロジェクトの責任者フォルダー (琉球プロジェクト：ミシガン州立大学側の琉球大学支援プロジェクト名) 琉球大学に派遣された教授団の医療関係者のフォルダー：公衆衛生・微生物学の教授で団長となった人物に関連するフォルダー、看護婦の資格を持っていたと推測される教授団スタッフのフォルダー 琉球大学に医学部設置の気運が高まった時期のミシガン州立大学教授団団長のフォルダー
- (3) USCAR 資料の検討結果と収集したデータから、USCAR 看護顧問と琉球政府立看護学校との関連、ミシガン州立大学と琉球大学保健学部での看護教育開始との関連について、事

実関係を示す年表を作成した。

4. 研究成果

1. 沖縄県公文書館に保存されている

USCAR 文書は沖縄の占領時代の記録である。占領下の琉球政府資料が一部破棄されているため、現在残されている琉球政府の資料だけでは占領下の沖縄の看護史を明らかにする事は困難である。USCAR 文書はこの不明な点を明らかにする資料となりうる事が確認できた。

(1) 医療・教育関係の USCAR 文書には、USCAR が米国海軍、陸軍の軍政時代を受けて看護行政を継続したため USCAR が設置された 1950 年 12 月以前の資料も含まれている。管理ファイル、議事録、琉球政府の予算など USCAR の運営に関するフォルダーと個人の記録をまとめた個別のフォルダーがある。

(2) 3,446 冊のフォルダーのうち、標題に看護関係のキーワードが入ったフォルダーは 19 冊あることが確認できた。「看護」が標題に入っているフォルダーの多くは公衆衛生看護婦と看護婦の病院や国外での訓練に関する内容であった。看護教育に直接関係すると思われるフォルダーは琉球大学での看護プログラムに関するものだけであった。看護プログラムは「ミシガン大学交換プログラム」と題され、4 年間で学ぶ看護のカリキュラムが記載されている。解剖生理学・化学・英語など具体的な科目と単位数の記載がある。

このフォルダーには、聖路加大学と高知大学の看護カリキュラムを視察した記録も残されているが、視察の目的や報告書の扱いなど、USCAR

資料だけでは明らかにできなかった。

(3) 個人名を標題としているフォルダーは奨学金や留学に関するフォルダーであり、当時の看護関係者と思われる名前を標題とするフォルダーも複数含まれている。

(4) USCAR の行った看護関係の法律整備に関する文書、布令の原案と推測されるフォルダーが保存されている。原案には公衆衛生看護婦・助産婦・看護婦の資格が規定されている。

(5) 報告書の抜粋と思われるフォルダーが保存されている。本研究で検討した報告書は 1961 年に作成され、米国側の視点で当時の沖縄の医療全般に関する評価がまとめられている。

看護教育に関する記述には、看護学校の学生数に見合った教員の配置や寄宿環境の整備、医療関係の専門書購入など、看護教育に必要な事を提案している。また、この報告書から USCAR 保健教育局スタッフの職位と権限に関する事項や、看護顧問ワニタ・ウォーターワース離任の理由も推測された。

(6) 1961 年から 1964 年まで USCAR の高等弁務官であったポール・キャラウェイの看護教育・行政への関与を示す文書も保管されている。キャラウェイは沖縄の看護婦のオペレーションナイチンゲールへの参加の可能性を確認するため、複数の看護婦に語学試験(英語)を受けさせている。

(7) USCAR の准看護婦教育に関する施策の変化が伺えるフォルダーも確認された。布令第 162 号には准看護婦の資格規定はないが、看護顧問フェアフィールドの時代には、ハワイ大学の協力を得て准看護婦教育を進めることに同意した会議録が保存され

ている。USCAR 統治下で USCAR が准看護婦教育に関わったとされる報告が確認できないことから、USCAR が沖縄での看護教育において准看護婦教育をどの様に考えていたかは、准看護婦制度と合わせて今後の課題としたい。

- (8) 1960年代に入ってから作成されている疾患別フォルダーには結核やフィラリアに加えトラコーマ、ハンセン病等がある。当時の沖縄での感染症対策は米国でも高く評価されていたが、対策が講じられた感染症は、当時沖縄で流行したすべての感染症ではなかったと思われる。米国の感染症専門誌にも撲滅の成果報告が投稿されているフィラリアは、1965年から5年間、年度ごとにまとめられているが、1960年代に流行した風疹を標題にしたフォルダーは1冊確認できるのみであり、当時のUSCARが特定の疾患に重点を置いていた事が推測できる。USCARの感染症対策は公衆衛生看護婦の養成数や、資格取得後の訓練等に影響していた。

2. ミシガン州立大学アーカイブスアンドヒストリカルコレクションには琉球大学支援プロジェクトについてのファイルが保存されている。

ミシガン州立大学は1950年に設立された琉球大学への教育支援を目的に、米国陸軍の要請によって米国教育評議会が選出した大学である。ミシガン州立大学の琉球大学への教育支援プログラムは琉球プロジェクトと呼ばれ、琉球プロジェクトは沖縄の日本復帰が決定した1968年に終了している。

琉球プロジェクトに関わった教授やスタッフの記録は2000年代に入っても寄贈されており、寄贈された記録物

は新しい資料として公開されている。

ミシガン州立大学関係資料の検討結果から、USCARが看護教育へ及ぼした影響と思われる点を以下に示す。

- (1) USCAR 資料にある聖路加大学への視察にミシガン州立大学教授団の団長であったジャック・ストックトンも参加しており、ストックトンがUSCAR 看護顧問と協力して琉球政府に看護教育の具体的な提案を行っていたのではないかと考えられる。
- (2) 琉球大学医学部は日本政府の援助を受けて設置されたとあり、これまでUSCARの明確な関与は確認できず、当時のUSCARは沖縄での医師養成に対して消極的であったとする研究報告もある。琉球大学の記念誌にも日本政府厚生省の訪問等の記述はあるが、USCARやミシガン州立大学教授団が関与していたという記述は見つかっていない。ミシガン州立大学教授のストックトンの資料からミシガン州立大学の関与があった事が確認できた。
- (3) スtockトンの手書きのメモを含めた文書では、琉球大学に医学教育を開始するにあたり公衆衛生を基本とした総合的な医学教育を提案している。ストックトンは公衆衛生の考えのもと、医師・看護婦・医療スタッフの教育を開始し、同時に熱帯の研究センターを琉球大学に設置する事を提案している。

当時すでに長崎大学にも熱帯地域での感染症に関する研究所は存在していたが、沖縄の地理的条件等を考慮すると琉球大学での研究所設置の利益が大きいと述べている。

ストックトンのメモ、提案した内容を和訳したと思われる文章が琉球

大学 20 周年記念誌に見られることから、研究所の設立を含めたストックトンのヘルスサイエンスカレッジ構想が琉球大学保健学部の設置に影響していると推測される。

- (4) スtockトンの琉球大学での看護教育に関する提案では、琉球政府立看護学校のプログラムを大学の看護教育に移行する事の利点が示されており、琉球大学側のスタッフとの会議で看護学校プログラムの琉球大学への移管に反対する大学職員への説得も示唆している。USCAR の一組織であったミシガン州立大学教授団が琉球政府立看護学校の教育をどの様に評価していたかが伺える。琉球政府立看護学校のプログラムは琉球大学の看護教育に継続されなかったが、この経緯については琉球政府の資料等を検証し今後明らかにしていきたい。

USCAR 統治時代で沖縄の看護と看護教育に影響した集団は 2 つあったと考える。1 つは USCAR 設置当初から看護教育や行政に関わったジョセフ・ケーザーやワニタ・ワーターワースをはじめとする看護顧問である。27 年間の直接統治期間中 17 の名看護顧問が USCAR に配置された。27 年間に約 1 年の看護顧問の不在期間が 3 度あるが、歴代の看護顧問は主に 1945 年から始まる看護学校の設置や教育、法令に関して看護教育や行政に影響をあたえていたと考えられる。

看護顧問と同様に沖縄の看護教育に影響を与えたのが、1951 年から 1968 年まで琉球大学の教育支援を行ったミシガン州立大学教授団であると考えられる。1950 年代のミシガン州立大学の琉球大学に対する援助は家政学や農学の分野だったが、1960 年代に入ると琉球大学での医学教育開始に関しても助言を与え、琉球大学の看護教育につなが

ったと推測される。USCAR の看護顧問と看護学校との関係、ミシガン州立大学と琉球大学保健学部との関係を示す年表は日本看護学教育学会と日本看護歴史学会で発表予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計 9 件)

安和やよい、名城一枝、嘉手苺英子 戦後沖縄の看護と看護教育-United States Civil Administration of the Ryukyu Islands, USCAR 文書の検討 日本看護歴史学会 2012.8.26-27

安和やよい 米国施政権下における沖縄の保健・医療-United States Civil Administration of the Ryukyu Islands (USCAR)文書の検討 日本公衆衛生看護学会 2014.1.12-13 神奈川

安和やよい、名城一枝 戦後沖縄の看護教育 琉球列島米国民政府 USCAR 文書の検討 日本看護学教育学会 2015.8.18-19 徳嶋

安和やよい、名城一枝 MSU 琉球プロジェクトと占領下の沖縄の看護教育 日本看護学教育学会 2016.8.22-23 東京

安和やよい、名城一枝、嘉手苺英子 1961 年報告書にみる占領下沖縄の看護と看護教育 日本看護歴史学会 2016.8.20-21 東京

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安和 やよい (AWA, YAYOI)

名桜大学総合研究所・研究員

研究者番号：60528991

(2) 研究分担者

名城 一枝 (NASHIRO, KAZUE)

名桜大学・人間健康学部看護学科・准教授

研究者番号：00316217

嘉手苺 英子 (KADEKARU, EIKO)

沖縄県立看護大学・教授

研究者番号：70117571